

廃棄するモノを身近に考える
～地域でつながるサイクルマーケット～
令和7年度 市民提案型協働事業

会津を元気にする会

事業の背景

会津若松市では、まだ使える物品が焼却ごみとして処理されているケースが多く見られます。

本来であれば再利用できる物品が廃棄されてしまうことは、資源の有効活用という観点からも課題であると考えました。

また、ごみ減量を進めるためには行政の取り組みだけでなく、市民一人ひとりの意識と行動が重要になります。

そこで本事業では、市民参加型の資源循環の取り組みを実施することで、地域の中でモノが循環する仕組みづくりを目指しました。

事業の目的

本事業は、市民参加型の取り組みを通じて資源循環を促進し、ごみ減量に対する意識の向上を図ることを目的として実施しました。

また、回収活動や講演会などの取り組みを通じて、市民が身近な生活の中でごみ問題を考える機会をつくとともに、将来的な地域循環モデルの可能性を検証することを目指しました。

事業の全体構成

本事業では、資源循環の仕組みづくりを検証するため、次の4つの取り組みを実施しました。

- ・リサイクル回収拠点の運営
- ・市民向け講演会の開催
- ・先進事例の視察調査
- ・SNSによる情報発信

これらの活動を通じて、実証と啓発の両面から資源循環の取り組みを進めました。

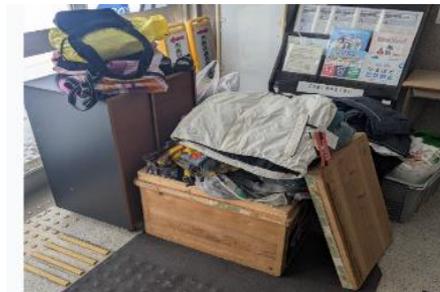
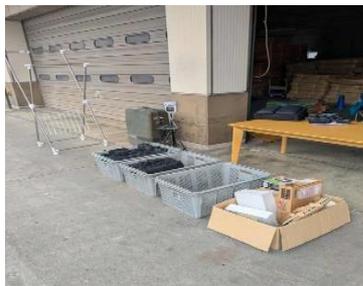


リサイクル回収拠点の運営

家庭で不要になった物品を持ち込めるリサイクル回収拠点を設置し、市民参加型の回収活動を実施しました。

回収拠点は合計7回実施し、延べ23名の市民が参加しました。

回収された物品の総重量は約336kgとなり、焼却処分を回避することができました。



回収物の内容と循環

回収された主な品目は

- ・衣類
- ・古書
- ・雑貨
- ・靴
- ・家具

などです。

これらの物品については、地域内で再利用されるよう取り組みを行いました。

また、回収した古着については「もったいない会津」へ寄付し、必要としている方へ届けられる形で活用されました。



先進事例の視察

資源循環の先進事例として、東京都世田谷区および日野市の「ジモティスポット」を視察しました。

視察では、回収拠点の運営方法や回収から再流通までの仕組み、行政と民間の役割分担などについて調査を行いました。

この視察を通じて、会津若松市における資源循環の取り組みの可能性や課題について整理することができました。



先進事例の視察【世田谷】

今回、ジモティスポットの取組を視察し、地域におけるリユース拠点の役割や運営方法について理解を深めることができた。

施設では、不要となった物品を気軽に持ち込み・持ち帰ることができる仕組みが整えられており、地域住民が参加しやすい環境づくりが工夫されていた。

また、キッズコーナーの設置など、子ども連れでも利用しやすい配慮がされており、幅広い世代が訪れやすい場づくりが行われていた。

さらに、ごみ排出量を数値で示すことで、環境課題を身近に感じてもらう工夫も見られ、利用者の意識啓発につながる取組であると感じた。



先進事例の視察【世田谷】

一般社団法人 ZERO WASTE JAPAN が開発した
「ごみゼロゲーム」

ごみ問題や資源循環を体験的に学ぶための
カード型の環境教育ゲーム。

ゲームを通じて

- Refuse (断る)
- Reduce (減らす)
- Reuse (再利用)
- Recycle (再資源化)

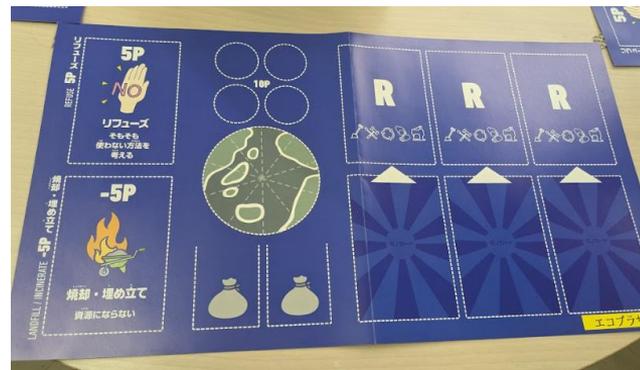
といった考え方を楽しく学ぶことができる。

例えば

- ・ 不要なものを断る → +5ポイント
- ・ 焼却・埋め立て → -5ポイント

など、行動によって環境ポイントが変化する仕組み。

常設されており、気軽に遊べるようになっている。



先進事例の視察【日野】

先進事例【日野市】

日野市では、粗大ごみのリユース促進を目的に市のリサイクル施設内の一角に「ジモティスポット」を常設。

市民が持ち込んだまだ使える家具や生活用品をジモティーを通じて譲渡・再利用する仕組みを導入している。地域内での再利用（リユース）を促進する取り組みであった。

特徴

- 市のリサイクルコーナー内に設置
- 持ち込み型のリユース拠点
- ジモティーのプラットフォームでマッチング
ごみとして処分される前に



利用条件（先進事例）

持ち込みは
各自治体の住民のみが対象。

一方で、譲渡については
地域外の利用者も含め、広く利用可能となっている。

つまり

- 持ち込み → 地元住民限定
- 譲渡 → 地域外も利用可能

とすることで、
リユース品の循環を広げる仕組みとなっている。



SNSによる情報発信

事業の取り組みを広く知ってもらうため、Instagramを中心に情報発信を行いました。

回収拠点の開催情報や活動の様子、資源循環の取り組みについて継続的に発信した結果、SNSの総フォロワー数は400人を超えることができました。

SNSを通じて、若い世代を含めた幅広い層への周知を行うことができました。

Facebook



会津を元気にする会

友達179人・共通の友達59人



Instagram

aizugenki2025 ...

【公式】会津を元気にする会 | 地域でつながるサイクルマーケット

投稿50件 フォロワー309人 フォロワー中504人

～地域でつながるサイクルマーケット～
会津若松市で活動しています。

- ・不用品回収・リユース
- ・ごみを減らして家計も整える... 続きを読む

www.link-aizu.org/genと他3人

@aizugenki2025

事業の成果

本事業を通じて、以下の成果を得ることができました。

まず、回収活動により336kgの資源を焼却処分から回避することができました。

また、回収活動や講演会を通じて延べ68名の市民が事業に参加し、資源循環に関する意識啓発を行うことができました。

さらに、先進事例の視察と実証活動を通じて、今後の地域循環モデルの検討に必要な基礎的な知識を得ることができました。



課題

事業を実施する中でいくつかの課題も見えてきました。

回収した物品の保管場所の確保や、再利用・再流通の体制づくりなど、継続的な運営のための仕組みが必要であることが分かりました。

特に、回収した物品の「出口」、つまり再流通先をどのように確保するかが重要な課題であると考えています。



今後の展望

本実証実験を通じて、市民が不要品を持ち込み、必要とする人へ再利用する仕組みの有効性を検証します。

今後は、再利用や再資源化を行う企業・団体との連携を進め、回収から再流通までを一体化した地域型リユースの仕組みづくりを検討していきます。

また、本事業で得られた経験を活かし、市民参加型の資源循環の取り組みを継続することで、地域全体で資源を活かす循環型の仕組みづくりを進めていきます。

まとめ

本事業では、市民参加型の取り組みを通じて、まだ使える物品を地域の資源として活かす活動を実施しました。

本事業の成果を踏まえ、行政・民間・市民が連携した資源循環の取り組みの可能性について、今後も検討を進めていきたいと考えています。

① 家庭

不要になった物

(衣類・家具・雑貨など)

② 回収拠点

市民が持ち込む

リサイクル回収

③ 選別

再利用可能なものを仕分け

④ 再利用・寄付・販売

- ・地域で再利用
- ・フリーマーケット
- ・団体へ寄付

⑤ 地域循環

モノが地域の中で
もう一度活用される



ご清聴ありがとうございました

